

# 東藥會報

昭和三年五月廿五日 發行  
東京市東區谷町三丁目  
東藥會報編輯部  
電話 二二二二  
印刷 東京市東區谷町三丁目  
印刷部

## 小異を棄て、大同に就け

黒澤秀雄

母校積年の宿望であつた校舎新築問題も、本校當局並に各位の絶大な後援の許に近く中野原頭、にその雄姿を見んとする、誠に歡喜に堪へません。  
四十有餘年の尊い歴史と學界の先覺者達のつばさに背められたその苦難の跡を省みて、無限の感奮を催すものである。然かも四十年後の今日その陣容を更めて、藥界の爲めに盡さんとする地下の英靈亦以て嘆すべきである。  
かくの如く母校隆昌の機運を招來するもの一に諸君の小我を棄てて大我に就ける明断の賜であると深く信するものである。  
夫れ一事を成す曰ふは易く行ふ事難しである、殊に國體的行動に於て然りである、故に此の國體的行動の完全なる一致を見んか、そこには何者をも逐行せずんば止まぬ力を生ずる、この力こそ何物を以てしても購ひ得ざる寶である、今や吾人は完全に校舎新築に對して、この寶を購ひ得た、換言すれば、コオベレシヨンの完全なる發露を見たのである、吾人はこのコオベレシヨンの偉大なる力の跡を深く省察し而餘の幾多の懸案についても亦小異を棄て大同につとめ雅懷を敢て高揚せんとするものである。今や藥界は多事多難である、一步をあやまらんか、實に測り知るべからざる危機に直面するであらう。藥界の中心勢力としての本會の責務亦重大

であると思ふ、己に新校舎なる佛は出來た、吾人は少くも此の佛をして、無魂の嘆をなからしめたい、魂は即ち本會員それぞれである。此の魂の完全なる融和こそ、佛心一体の妙諦であらねばならぬ。吾人は此の時機の際四十年間陶治薰育せられた東藥魂の發露を遺憾なからしめ、飽く迄協力の二字に邁進せられん事を望む、此れ即ち地下に眠る先覺者達の英靈に對する禮讃であり、且つ東藥の光輝をして意義あらしむる所以である。

## 新校舎敷地

地鎮祭

校舎改築地鎮祭は去る一月十六日朝來の雪空も名残なく晴れ渡つた麗なる春の目影を浴びつゝ、氷川神社司宮によりて厳に執行された。當日は池口校長を始め上野博士、學校職員、東藥會理事、建築委員、請負者竹中組の代表、學生代表等參列して、午後零時半漸く式を終り、酒に香に校長始め満面喜色を湛へて散會す。

## 建築彙報

東中野に建築中の新校舎の建築工事現況は、今敷地内にバラック式の工事監督事務所を設け、更に材料置場三棟をつくり、敷地の土工は地ならしに從事し、校舎の地下室の部分だけは大体

に於て土堀りを終つた、陽もさららかに照る頃に至ればコンクリートを流し込む音もきこえるであらう。

## 校舎改築資

金に就て

校債により莫大なる債務を負ひて新築工事を進捗しつゝ有るが、何としても心細く感ぜざるを得ない、校友諸君の努力に依り

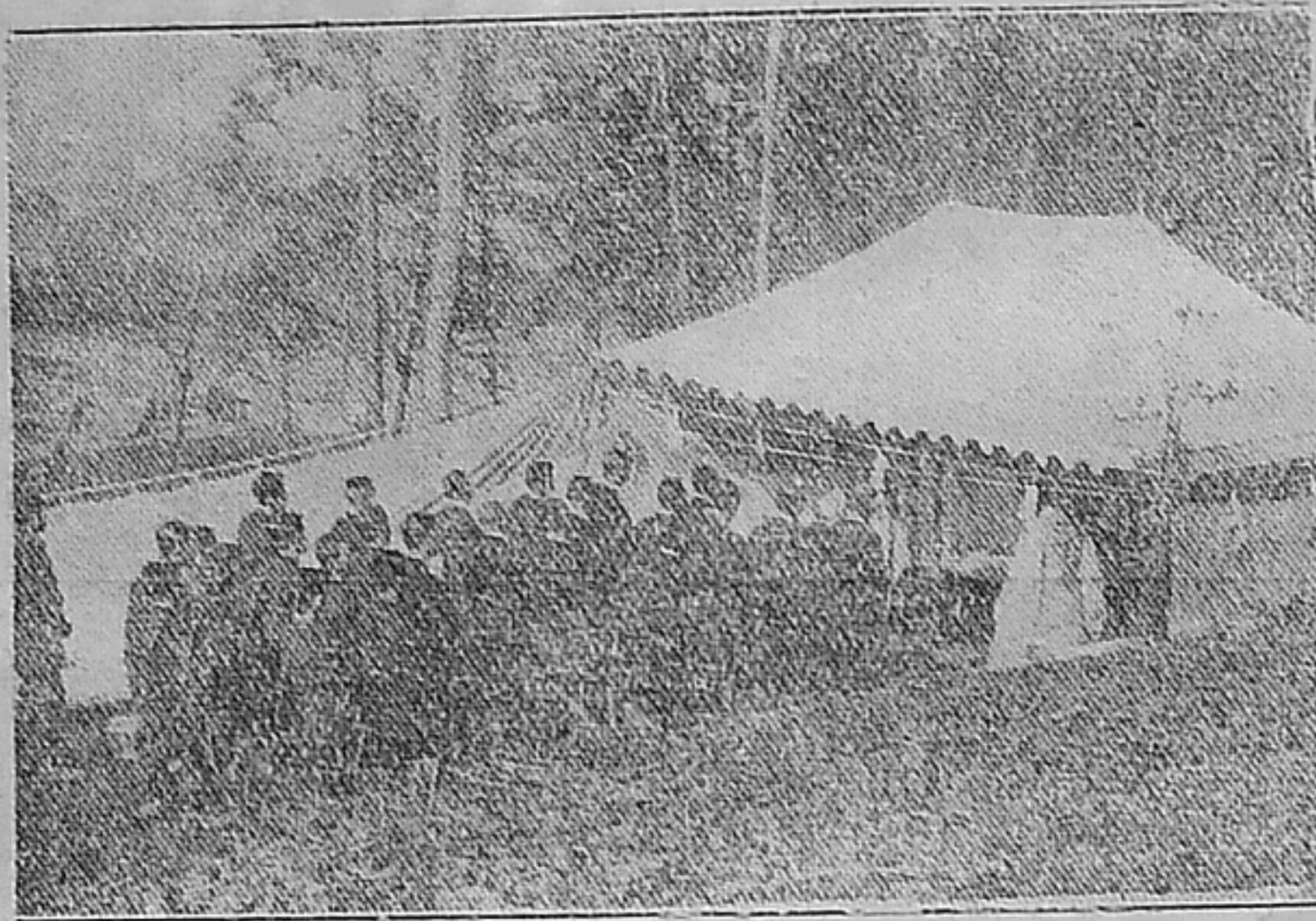
## 卒業生の就職に就て

本年三月本校を卒業する生徒は約百二十餘名の見込で有る、之が就職口に就ては學校に於ては出來得る限り努力を各まざる積りであるが、需求者は如何にも廣汎にして漠然たるもので有るから、出身者各位の御盡力に依り適當なる御紹介を切望すると共に希望條件を附して續々御申込を願ふ次第で有る。

## ハルピン行

牧野卓

ハルピン行。澄んだ冷たさは美しい。北滿の冬、一度降つた雪、翌年の春まで消えない、雪の廣野をもつ北滿の冬。水晶の



新校舎敷地地鎮祭

日も早く校債を償還して母校を泰山の安きに置く事は吾等校友の望し、庶ふ慮である。校長始め理事者を焦慮せしめつゝ有るから、寄附金未拂込の諸君は一

刻も早く完納を御願ひすると共に、未だ御寄附無き諸君は當局の苦心を諒察せられ是非共御申込を切望して己まない次第である。等にも、極寒に抗する何等かの

設備は必要であつた。衣は軽くして運搬に便利であつた爲、農作物と交易して得、食は彼等の與へられた唯一の仕事、籍作よりは苦しんだ。結局頭から絞りに出したものは、實に土を焼いて瓦にする、此瓦焼き工業であつた。

自分は奉天以北の、殆んど目をさへざるものなき平原を暴進する車窓から、村近き木立の下に此瓦焼きの窯を発見するのであつた。不完全ながら衣食住を得た彼等に、次に起つた問題は如何にして夜を利用すべきか、即ち燈火の問題であつた。豆を絞つて得た液に點火した彼等は驚きした。夢想した明き煙は液の盡きる迄續いた。かぐわしき甘き香は、高粱酒を焼いた時の目を突く烟りではなかつた。即ち豆油の工業……油房は瓦焼工業に次いで、餘程後れて起り、豆油の効用の世界に紹介せらるゝに及んで、今も尙改案されつゝ進んで居る大豆工業である。滿洲の工業は初め土を利用する事から起り、次に天に哉はるゝ豆を利用し、更に土中に埋藏せらるる鐵、石炭を利用する工業發達の基本的進路を取りつゝある長春、一滿鐵の生熊藥劑長が寒い中をわざわざ、お迎へ下さられた。又夜中を東支鐵道へ御送り下され、バスや萬端の面倒をみて下された。何と御厚志を感じてよいか分らない。

ハルピンの朝——太陽は凍る朝霧を透して雪原に輝く。此冷たさ、そして俺はハルピンをつかまねばならぬ。今日は十一月七日、革命記念日だ。赤旗が驛頭に街頭に飄がへつて居る。自動車で新市街傳家句を乗り廻し午後プリスタンと稱せらる、商店街を歩く。丘から見渡すと霧で町の外れが分らない。雄大なシベリヤを横断して更に南下し、北滿の中心、松花江の沿岸に、此大都を建設したロシア人の偉大さが思はれる。

口三十萬と呼ばれ及六十萬とも稱せらる。將來どれ程大きくなるか、果てしない感じがした。日本語の全然通じない事を淋しく思つた。  
ハルピンの藥局——ハルピンは純然たる醫藥分業だ。恐らく東洋一とも稱すべきメイン、ストリート。キタイスカヤの角店は、殆んど堂々たる藥局を以て飾られて居る。キタイスカヤの街から藥局を取除いたら、果たして何が残るか、之は自分には全く思ひ付けぬ事であつた。市營の藥局がハルピンにある、とはぼんやり發つ時間かされた言葉であつた。街を歩き交ふロシア娘のふくらみは柔い曲線に見取れて居た自分が、ふと顔を上げた時、目についたのは「アマシー」の金文字であつた。其構が餘りに壯麗なもので、之が例の市營藥局ではないかと思ひ看板を注視したが、只獨特のロシア文字が、金色に光つて居るのみだ。ドアを押して這入ると醫療機械や化粧品が並べてあり、硝子寶臺が三共の藥局よりもつと廣いと思はれる所を、土間と調剤所とに分けて居る。調剤所を着た金髪の娘さんが五六人急がしげに調剤して居る。其一人を捕へて、ブロークンな英語で「此處は市營藥局か」と聞くと相手もブロークンで「違つた。此處はジョージ藥局だ」と返し、近くに居た肥滿せる支配人らしい男が「市營藥局はエムスカヤ街だ。然し何か用か」ときくので「俺は日本の藥劑師でハルピンの藥局を見に来たのだ。お前の店を見せて呉れないか」と大きく出ると「何でも参考に成るものは見て行つてくれ」と先に立つて案内し出した。露西亞人は寛大なものだ。此藥局は一日百枚近くの処方箋を扱うものだ。兎に角試験室の設備はあつた。倉庫も立派に出來て居る。チンキ、エキス類も自家用のも此處のはで作るそう、其設備

もあつた「俺も日本を知つて居るが、日本の藥局は貧弱だ」と其男の曰く。口惜しかつたから「夫は昔の事だ。東京の三共や大阪の丹平は、此處の二倍あり」と言つてやつたら、人の好い露西亞人は驚いて居た。エムスカヤ街の市營藥局其他のどのハルピン市自治會の經營で、一日二百枚以上の処方箋を扱ひ一種の模範藥局だ。冷蔵室、藥學試驗室、化學研究室、製劑室、化學藥品倉庫、藥品倉庫等藥局として備ふべき凡てを設備し、在庫品は豊富を誇る滿鐵病院以上だ。堂々たる体に温かき笑ひを浮べた支配人が自ら案内してくれ、別れる時大きな手でぎられた時、何となく此翁さんが懐かしかつた。ハルピンで扱はれて居る藥品は、主としてスミス、ドイツの品物で日本品は薄荷、ナフワリン、夫に糊帶材料位のものだ。相當の資本で日本藥品の間屋をやれば、日本人の一人二人はやつてゆけると、露西亞の藥屋さんは語つて居た。

同 助手 富永 貴一  
多年本校の爲、御盡力下さられた瀨川林次郎先生には御不幸にも病を得、御健康上去年十月二十八日御辭職の止むなきに至り先生の御後任として新に内藤多喜男先生御就任となる。又本校助手豊岡、富永兩氏も都合上辭され、新に佐々木、東宮兩氏御來任された。

同 祝當選大口喜六氏  
大藏省政務次官にして衆議院解散と共に愛知縣第五區より立候補中なりし同氏は、今回最高點を以て當選せられた。業界多事の折柄其の健在を祈ると共に前途を祝福して止まない。氏は本校第二回の出身にして、吾等校友の最も敬慕する先輩として昨秋丹波前校長御逝去の後には本校理事として就任を快諾せられ、政務多端なるにかゝわらず盡力せられつゝあり。

同 悼漆原兵吉氏  
漆原兵吉氏には昨春來神經痛にて大久保の自邸に療養中の處で腦病勢頓に幸り一月遂に永眠せられたり、氏は本校第一回首席の卒業にて本校の爲め盡力せられ其の功や大なりしも不幸此計報に接す謹んで弔意を表す。

職員移動  
拜命 内藤多喜男  
同 助手 佐々木康之  
同 助手 東宮 豊  
退職 瀨川林次郎  
同 助手 豊岡 憲之  
同 助手 河邊 廉次

謹告  
拜啓嚴寒の候益々御清榮奉賀候陳者先般來各位の深厚なる御援助に依り起工仕候東京藥學專門學校新築工事は以御蔭着々進捗し去る一月十六日地鎮祭を施行し今秋十月には竣工可致洵に御同慶の至に不堪候然るに工事の進捗に伴ひ工費其他諸般の支拂上資金の必要愈々切實に相成候に就ては時節柄誠に乍御迷惑何卒事情御諒察の上至急應分の御寄附被成下度茲に懇願仕候



# 在校部報

## 庶務部々報

昭和二年十一月二十七日午後一時より本校講堂に於て、東藥會總會並びに故校長丹波敬三先生の追悼會を催す。この日遺族として特に未亡人、嗣子直太郎氏其の他の方々御参列あり、藥學界、藥業界に於ける有力なる多數の先輩及び在校生等約五百餘名集り、最も厳肅裡に追悼の儀を施行せり。

昭和三年一月二十三日午後一時より新校長池田慶三先生の歡迎會を催す。會する者は在校生四百。滿腔の熱誠を以て、池田先生を校長として迎へ得たるを喜び、且つ賀しぬ。

昭和三年一月廿七日午後一時より卒業生送別會を催す。送らるる者百。送る者三百。校長始め諸先生の御訓辭あり、在校生の送別の辭あり、又卒業生の謝辭あり。それに加ふるに幾多の餘興ありて、歡を十二分に盡し四時に近く散會す。

## 辯論部々報

吾々が尊敬的であつた故稻田部長の一周年を迎ふに當り、吾々は又涙新なるを感ずるのでありませう。そして過去一ヶ年の活動はひとへに今回卒業せんとする、網谷鳥居、齋藤諸兄に負ふ事が多いと深く感謝する次第であります。而して今回内藤新部長の就任を得て吾々辯論部は活動のなきんとするものであります。

送るは悲し、去るも亦悲し、然し吾々在校部員は榮ある新卒業生を心からおよろこび申上げるのであります。その最後の圓らかな集ひを二月九日、本郷大學堂に於て開きました。新部長の御出席の許に盛大な、そして又本當に愉快な會でありました。

送別會の順序は次の様でした。

## 庭球部々報

多年養雪の功成り今度芽出度業を終へらるゝ大久保、山地兩兄に對し、部員一同深甚なる慶賀の意を表す。願ひれば多年共に戦勝の榮譽を荷ひ、或は敗戦に悲憤の涙を共にせし兄弟を送るに當り、轉哀別の念に堪へず。此に我部は二月十日江知勝に於て送別會を開催し部員一同大久保、山地、兩兄の健在を祈れり。

○送別會次第

- 一、開會之辭
- 二、委員 和田 啓一
- 三、送詞 二年委員 大木 宏男
- 四、記念品贈呈
- 五、答詞 三年委員 大久保 覺
- 六、部長挨拶

實は今晚の庭球部送別會には是非出席して心から卒業生を御送らしたと思つたのですが、何うしても手放しの出来ない用事の爲め出席の出来ない事を非常に残念と思ひます。私は今卒業する大久保、山地の兩君が社會に出てから所謂庭球で鍛えたスポーツマンシップを發揮して大いに活動する事を期待する者であります。尚部員諸君も今後大いに努めて兩君のこれまでに習得した技術を報ゆる所あらん事を希望する次第であります。一言以つて今日迄の兩君の努力を謝し、尚今後健康を祈ります。

- 一年野々宮文四郎  
二年夏目 次郎  
三年張 國文  
同 名目勝雄  
同 織田 萬作  
同 松本 宏  
同 三浦 保治  
同 同 同 同
- △一月二十三日 關東學生雄辯聯照和會に派遣す二年 高士一夫  
△二月四日 第一早稻田高等學院主催雄辯大會に辯士派遣す二年 溝口 信男  
△二月十四日 故稻田部長一周忌の爲委員募參をなす

## 野球部々報

去る二月四日午後六時より上野揚出しに於て當部本年度の卒業生送別會を催す。當日は卒業生たる古川、河島、濱野、富岡の四氏をはじめとし部員十數名參會し、和氣霽々の中に送別會を終へたり。尚その夜來學年度の主將として二年の松澤君選ばれその任にあたる事となれり。

## 柔道部々報

去る二月三日より二週間、毎夜根津八重垣町の安中道場に於て二年生主催にかける寒稽古を行へり。會する者二年の菊池、黒田、一年の黒川、西川をはじめとし數名。寒は明けたりとは云へ事實に於て酷寒の夜、雪をものともせず骨にまで徹る風に向ひて猛練習を続けたり。而して卒業生諸君の送別會は三月に入りてより行ふつもりなり。

## 角力部々報

二月十五日午後六時より笹の雪に於て卒業生送別會を催す。會する者卒業生たる山崎、川田、小島、居の諸君をはじめ部員十數名。卒業生諸君の前送と其の健康を祝し十時すぎ散會せり。

## 競技部々報

昭和三の年を三度迎へた私達は雄々しい活躍をせんとして今限りについでる。願ひに干葉藥專との對抗競技に勝ち醫藥聯盟戦には第四位を占めた我が部は幾分進歩したと云つても良いと思ふ。

今年度は老將淺岡を主將に、守谷、竹内等の諸豪を以て堅め大阪寢屋川に開かれたる全國商業大會に是非とも出場したいと思つて居る。關東醫藥聯盟の當番校である我が部は相當多忙な事であらうが、海の香る頃櫻の綻ぶ頃には練習を開始し昭和三年度競技界の一頁を飾りたいと思ふ。

## 昭藥會報

現在の第三學年を以て組織せる本會も益々其の後堅實なる歩みを進め、其の親睦を計り結束を固めて着々其の目的に向つて成功しつつあることは、吾人會員の最も欣快とする所である。最近の動靜を簡単に述べれば次の様である。

我々學生に取つて最も重要な意義を持つて居る所の工場、研究所に於ける參觀見學は時間的許す限り之を實行した。本學期に於ける見學場所次の如し。

亀井戸花王石鹼工場、川口町ニオンビル工場、川口町燃料研究所、品川町三共製藥工場、小石川理化學研究所、駕籠町榮養研究所、東京硫酸株式會社工場、有樂町朝日新聞社

尚十二月六日午後一時より本學期に於ける照藥會懇親會を第三學年教室に開催せり。先づ野頭委員、太田君の輕快なる開會の辭あり、それより簡単に會計會務の報告あり、高時委員より之の度辭職せられたる瀨川先生に對し、相當の記念品を贈るの件を即決、直ちに餘興に入る。先づ鳥居、澤田二君に依る珍奇なる朝鮮、滿洲地の漫談漫歌あり之れに次ぎて松村君專賣のブラジルの國歌、森君特選のシヤムの國歌のバリトン獨唱あり、其の他ハルモニカ吹奏、ローカルカラーに富む俚謡、民謡等あり最後は春田君十八番の聲色、活潑に若人の笑を無限にエックスプローションせしめて盛會裡に照藥會の萬歳を三唱して閉會せり。

## 會員移動

去る一月二十三日より一週間本校道場に於て寒稽古を行へり。部員皆稽古をもとせしめ馳せ參じ遂に皆出席者十二名の多きにのぼれり。而して寒稽古最後の日皆出席者全部にメダルを贈呈し一同元氣裡に會を開けり。

小林準一郎 市外池袋一六三〇  
日色昌三 小石川區小日向臺町二の一六  
片岡功(奥村改メ) 四谷區香葉町三六(鴻上診療所内)  
渡邊徹(南滿鐵安東醫院藥局) 船橋三郎(船橋改メ) 神戸市海運

## 獨逸メルク社嚴撰

# 生藥標本 二七七種

- 硝子筒入セルロイド蓋付
- 大型 高サ 吋 徑三吋四分ノ一……一〇五種
- 中型 同 七吋 同二吋二分ノ一……七八種
- 小型 同 五吋 同二吋二分ノ一……九四種

## 特價 四百圓也

○新鮮にして個有の香氣及色相を保存す

○標本とし將又含有性分研究用として適切なり

東京市日本橋區本石町三ノ八

# 化學問屋 小島義忠商店

電話日本橋(24) 一七五六番 一七五七番

# 錠劑 は確かて速くて廉い

●當所の錠劑は上野式萬能製錠機に由る獨特の製品なれば光澤に於て崩解度に於て他の追及し能はざる特長を有す

●御希望の方には製造の現況を公開す

東京市外西區鴨町新田八五(丹羽博士邸裏)

上野錠劑製造所 所主 藥劑師 上野 篁

(電話大塚) 一三九六番

標商 録登

GOMEDOL

NEW MEDICINE

にきび取藥特

〇ニキビを治す新しき藥

〇治つてもアトにならず

〇オレモキアトにもよき

價藥 五七支

貳拾圓

本舖 東京醫學株式會社

電話東京三六五番 船橋改メ五七支

# 理化學分析 一式

# 加藤貫々舎

本店 下谷區上野花園町十三

出張所 東京藥學專門學校内

# 歌橋亞鉛華絆創膏

酸化亞鉛二一%含有

- 粘着力強靱
- 耐久力優秀
- 絕對無刺戟

東京南品川 歌橋製藥所

電話高橋(44) 二九一號

電話東京 三三三三號



リボン印



富永貴一 樺太真岡南濱町二ノ三  
 富永泰助 樺太真岡南濱町院長  
 岩本勝次郎 市外池袋一〇九五  
 近藤三治郎(入會) 市外下目黒九  
 七九  
 鍋倉盛重 バイエル東京支社勤

改名披露  
 小生事本年度より義一改め克政  
 と改名致しました。右御披露申  
 上げます  
 二學年 岩城 克政

お願ひ

左の方の御住所及び近況御存知  
 の向は至急お知らせ下さい。  
 ヨ、タ、レ、ソ、ツ、ネ部

- |          |          |          |          |          |          |          |          |          |          |          |           |            |            |            |            |            |            |            |            |            |             |              |              |              |              |              |              |              |              |             |             |              |              |              |              |              |              |              |              |             |             |              |              |              |              |              |              |              |              |             |             |              |              |              |              |              |              |              |              |             |             |              |              |              |              |              |              |              |              |             |             |              |              |              |              |              |              |              |              |             |             |              |              |              |              |              |              |              |              |             |             |              |              |              |              |              |              |              |              |             |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|
| 米田 清藏(元) | 米山 良太(三) | 中根 榮二(一) | 中根 榮三(二) | 中根 榮四(三) | 中根 榮五(四) | 中根 榮六(五) | 中根 榮七(六) | 中根 榮八(七) | 中根 榮九(八) | 中根 榮十(九) | 中根 榮十一(十) | 中根 榮十二(十一) | 中根 榮十三(十二) | 中根 榮十四(十三) | 中根 榮十五(十四) | 中根 榮十六(十五) | 中根 榮十七(十六) | 中根 榮十八(十七) | 中根 榮十九(十八) | 中根 榮二十(十九) | 中根 榮二十一(二十) | 中根 榮二十二(二十一) | 中根 榮二十三(二十二) | 中根 榮二十四(二十三) | 中根 榮二十五(二十四) | 中根 榮二十六(二十五) | 中根 榮二十七(二十六) | 中根 榮二十八(二十七) | 中根 榮二十九(二十八) | 中根 榮三十(二十九) | 中根 榮三十一(三十) | 中根 榮三十二(三十一) | 中根 榮三十三(三十二) | 中根 榮三十四(三十三) | 中根 榮三十五(三十四) | 中根 榮三十六(三十五) | 中根 榮三十七(三十六) | 中根 榮三十八(三十七) | 中根 榮三十九(三十八) | 中根 榮四十(三十九) | 中根 榮四十一(四十) | 中根 榮四十二(四十一) | 中根 榮四十三(四十二) | 中根 榮四十四(四十三) | 中根 榮四十五(四十四) | 中根 榮四十六(四十五) | 中根 榮四十七(四十六) | 中根 榮四十八(四十七) | 中根 榮四十九(四十八) | 中根 榮五十(四十九) | 中根 榮五十一(五十) | 中根 榮五十二(五十一) | 中根 榮五十三(五十二) | 中根 榮五十四(五十三) | 中根 榮五十五(五十四) | 中根 榮五十六(五十五) | 中根 榮五十七(五十六) | 中根 榮五十八(五十七) | 中根 榮五十九(五十八) | 中根 榮六十(五十九) | 中根 榮六十一(六十) | 中根 榮六十二(六十一) | 中根 榮六十三(六十二) | 中根 榮六十四(六十三) | 中根 榮六十五(六十四) | 中根 榮六十六(六十五) | 中根 榮六十七(六十六) | 中根 榮六十八(六十七) | 中根 榮六十九(六十八) | 中根 榮七十(六十九) | 中根 榮七十一(七十) | 中根 榮七十二(七十一) | 中根 榮七十三(七十二) | 中根 榮七十四(七十三) | 中根 榮七十五(七十四) | 中根 榮七十六(七十五) | 中根 榮七十七(七十六) | 中根 榮七十八(七十七) | 中根 榮七十九(七十八) | 中根 榮八十(七十九) | 中根 榮八十一(八十) | 中根 榮八十二(八十一) | 中根 榮八十三(八十二) | 中根 榮八十四(八十三) | 中根 榮八十五(八十四) | 中根 榮八十六(八十五) | 中根 榮八十七(八十六) | 中根 榮八十八(八十七) | 中根 榮八十九(八十八) | 中根 榮九十(八十九) | 中根 榮九十一(九十) | 中根 榮九十二(九十一) | 中根 榮九十三(九十二) | 中根 榮九十四(九十三) | 中根 榮九十五(九十四) | 中根 榮九十六(九十五) | 中根 榮九十七(九十六) | 中根 榮九十八(九十七) | 中根 榮九十九(九十八) | 中根 榮一百(九十九) |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|

編輯後記

明けましてお芽出度うござい  
 ます。……今頃御慶もおかしい  
 話ですがこの會報は一月が休刊  
 なので、新春になつてからは  
 れが第一の見参ですから、あへ  
 てかう申し上げる次第でありま  
 す。去る一月下旬に三年の大小  
 小倉兩兄から會報編輯の受継を  
 致しました。東藥會報編輯部員  
 となつてから二年、その間多く  
 閑然として居て居ましたが  
 これからはカレッジアンとして  
 の總てを賭してもこの東藥會報  
 編輯の任にあたる覚悟でありま  
 す。然しこの些細事に見える編  
 輯でも、先輩にわたらせられる  
 出身者の方々及び在校生諸君の  
 御援助なくしては到底遂行し得  
 られるものではありませんから  
 何とぞこの若冠の輩に一臂の御  
 力添へを賜らん事を特にお願ひ  
 する次第であります。幸に編輯  
 部には萩原先生をはじめとし深  
 間内、鶴田、金成の諸君がおら  
 れて各々その勞するところを決  
 して各々であります。が、より  
 よきものを期する爲にはどうし  
 ても皆様方の御盡力に待つの外  
 ありません。吳々もこの會報を  
 培ひ給はん事を希ひます。  
 今私が責任を持たされてから  
 の第一の編輯を終へるにあたり  
 あへて御挨拶を願ひと抱負  
 の一端とを述べて置筆致します  
 (山本 文士)

**凍傷**  
 治療及豫防劑

**チユル**

醫學博士 石丸一氏創製

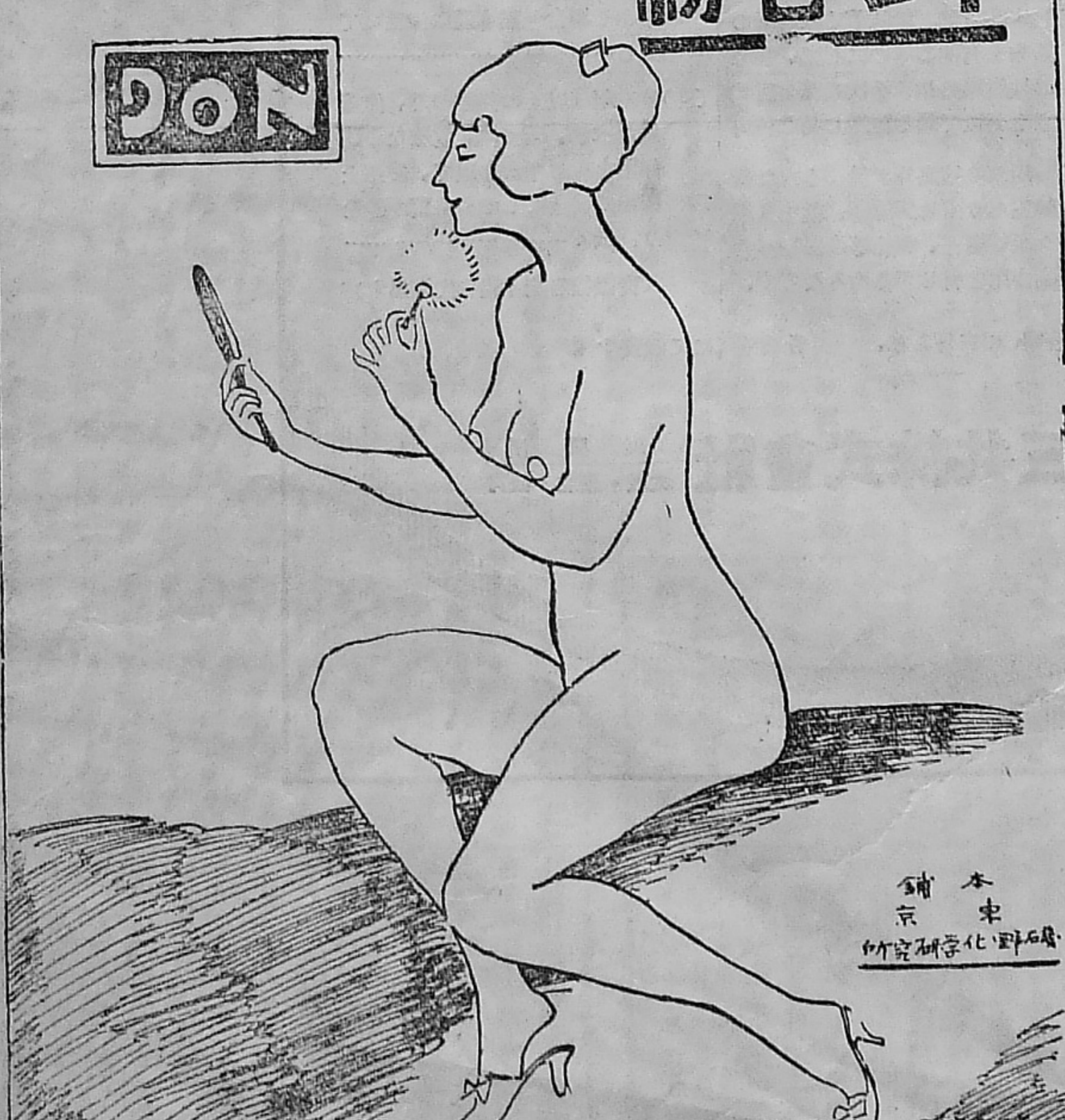
しもやけの療法  
 (石丸博士述)  
 冊子無代進呈す

包裝及價格  
 十五入 一函 三十錢  
 廿五入 一函 六十錢  
 五十五入 一函 一圓十錢  
 百五入 一函 二圓  
 五百入 一函 七圓

發賣元 株式會社 塩野義商店  
 大阪市道修町  
 東京・日本橋區大傳馬町



**ドニ白粉**



本東 研野野研研  
 研野野研研



# 鎮咳と 祛痰に

## プロチン

肺結核、氣管枝炎、肺炎、感冒、百日咳並に其他呼吸器病に基因する咳嗽喀痰ある場合に盛に賞用せらる。

醫學博士吉村喜作先生は  
本劑を多數の患者に應用し、其の治  
驗を實驗醫報第二卷第十四號に公表  
せらる、其要に曰く……

- (1) 本劑は祛痰と同時に鎮咳劑として顯著確實なる效力を有す……
- (2) 本劑は從來の祛痰劑に比し次の如き數多の優越せる特長を有す……
- (イ) 本劑は從來の祛痰劑の如く粘膜を刺激して分泌を促進乃

至増多せしむるが如き不快なる作用を有せざるのみならず、却て之を抑壓乃至減少し、同時に粘液を溶解するの作用を有し、その喀出を容易ならしむ……

- (ロ) 本劑は殆ど無味若くは僅微の苦味を有するものにして、在來の祛痰劑の如き不快の味を有せざるを以て頗る服用し易し……
- (ハ) 從來の祛痰劑に於ける大なる缺點たりし胃腸障碍、就中食慾不振、嘔氣、嘔吐等の忌むべき副作用を有せざるのみならず、

却て食慾を増進する傾あり……

- (ニ) 祛痰と同時に鎮咳の作用を有するは本劑の特長にして、從來の祛痰劑應用の際の如く、麻痺劑を併用する必要なく、若し之ある場合と雖も適に少量にて足る……

- (三) 本劑は以上の諸點の外、何等忌むべき、若くは、危險なる副作用を有せざるを以て、使用上極めて安全にして最も實用的なり。云々……

(實驗報告摘譯集氣代進品す)

粉末、錠劑、液劑、の三種あり、 各地藥肆にて販賣す

本 社  
東京 室町

三共株式會社

出張所  
大阪・臺北・紐育